



## 県産木材イメージアップ戦略の概要

### 県産木材イメージアップ戦略策定の趣旨（現状）

県産木材を使うことの意義は 森林環境の保全・二酸化炭素の排出削減・地域産業の活性化などがあげられる。ただし、このことを聞いたからといって、使命感を持ち、県産木材を利用する佐賀県民は少数だと思われる。県産木材のことを知り、利用してもらうためには、県産木材のイメージアップが欠かせない。そのため、クリエイティブ・ディレクターによる県産木材の広告などのイメージ戦略を策定する。また、県産木材をふんだんに使用し「木の心地よさ」や「かっこよさ」をアピールできる魅力的なデザインの「さがの木の住まい」を募集し、木造住宅コンクールを開催するとともに、その優れた事例を広く県民に紹介し、県産木材の利用の意義や木造建築への関心や理解を深めるなど、県産木材に対する「意識」の向上を図っていく。

### イメージアップ戦略を策定するにあたって

#### ふるさと“さが”を思う

海と山と自然に恵まれた“さが”。  
“さが”で育った人の多くは、「ふるさと」を思い出す時、その自然を思い描くのではないだろうか？

“さが”は面積の約 4 5 %を森林が占めており、その森林の約 6 7 %が、人の手によって植えられた人工林（おもにスギ、ヒノキ）である。

ふるさと“さが”で育った木は、今、伐採期を迎え、使われるのを待っている。

## I. 佐賀県産木材を知ってもらう

### 広報

- I - 1. ロゴマーク
- I - 2. デザイナーによる大工・工務店 P Rスキルアップ講座
- I - 3. さがの木の住まいコンクールの実施
- I - 4. H Pリニューアル 等、情報発信
- I - 5. WEBでの情報発信
- I - 6. 佐賀県産木材 住宅プラン集の作成

### 体験

- I - 7. 木材を体験できる機会の創出【木育推進】

### イベント

- I - 8. P Rイベントの開催
- I - 9. 林業体験ツアーの充実
- I - 10. 木の家スクールの開校

## I - 1. ロゴマーク

【キーワード】

### ・ 共感を得ること

今の若い人たちは、感受性が豊かである。  
自分の個性を誰かに発信できる（伝える）ことができる SNS 世代。  
この世代に共感を得ることで、一人一人が、発信し、共感の輪が広がる。

### ・ ふるさとの木

県産木材に対して、より親しみを持てるよう、  
産地情報を表示（県産木材→ふじの木、いまりの木など）  
ふるさとの山に思いを馳せられるようにストーリーを考え、伝える。

上記のキーワードをもとに、県産木材のブランディングを図り、P R する際の県産木材の“象徴”としてのロゴマークを策定することとした。



県民の方が、ロゴマークを見て、「Saganokiふるさとプロジェクト」の取組（県産木材の利用拡大への取組）を連想できるようなマークとしたい。

**「重厚感・木材が持つ無骨さ・カッコよさ」  
この思いをロゴに込めている。**

ロゴマークの使用は「佐賀県産木材」地産地消の応援団だけでなく、地域の山を応援する  
全ての人たちの象徴としたい。

## I - 2. デザイナーによる大工・工務店のPRスキル向上セミナー

特に若い世代に、「県産木材を使用した家・インテリアなど」を知ってもらうために欠かせない要素は、「かっこよさ」。チラシ、ホームページの制作や、完成した住宅の写真撮影の手法など、個々がデザインを取り入れることで、「地産地消の応援団」のPRスキルの底上げを図る。

【完成邸の写真撮影手法】



【ホームページの制作】



## I - 3. さがの木の住まいコンクールの実施

佐賀県産木材のイメージアップを図るため、佐賀県産木材をふんだんに使用し、「木の心地よさ」や「かっこよさ」をアピールできる魅力的なデザインの「さがの木の住まい」を募集し、木造住宅コンクールを開催。「地産地消の応援団」の住宅建築のデザイン力や技術力を向上させるとともに、その作品を広く県民に紹介し、木造住宅への関心や理解を高める。

【平成27年度チラシ】



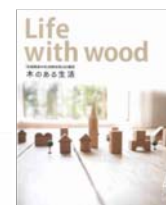
【平成27年度入賞作品】



【平成27年度CM】



【平成27年度パンフレット】



## I - 4. HPのリニューアル

情報発信ツールとしてホームページは欠かせない。また、スマートフォン、タブレットの普及でホームページの重要度がさらに増している。その中でも、ただ情報を発信するだけでなく、デザインにもこだわることが必須である。文字情報ばかりのホームページは、読んでもらえない。洗練された情報をいかに「かっこよく」見せるかにより、ブランドイメージは大きく変わってくる。魅力的な写真の掲載や新着情報の発信、モバイルユーザーへの対応（Webアクセシビリティの向上）を行う。

## I - 5. WEBでの情報発信

「ふるさとの木」プロジェクトをより親しみやすくするため、今までの行政らしくないウェブサイトを作成し、若い人たちに共感を生む仕組みづくりをする。身近にある森林の大切さや魅力を情報発信し、森林や木材のファンを醸成していく。県民の方々から、木を使った家・インテリア等、「かっこいい」木使い自慢の写真を公募し、木材を使用するヒトやモノをストックしていく。

## I - 6. 佐賀県産木材 住宅プラン集の作成

佐賀県産木材をふんだんに使用した住宅のプラン集を作成。プラン集の中には、佐賀県産木材の特徴なども明記。佐賀県産木材で造る「かっこいい木の住まい」を凝縮。

## I - 7. 佐賀県産木材を体験できる機会の創出【木育推進】

幼い頃から『木材と触れあえる環境』と『実際に手にとって体験』することが木材の利用促進を図る上で必要。より効果的に木材に興味を持ってもらえるようなイベントを実施する。

木育をわかりやすく伝え、実りある形で広める方法として、私たちが推進しているのが「ウッドスタート」です。ウッドスタートとは、暮らしの中に積極的に木を取り入れ、赤ちゃんをはじめとするすべての人々が、木と出会い、ふれあいを大切にする取り組みを意味します。 多田 千尋さん ~東京おもちゃ美術館 館長 認定NPO法人日本グッド・トイ委員会 理事長~

## I - 8. 県産木材を使った木造住宅や家具・インテリアをPRするイベントの開催

県内流通施設（大型ショッピングセンター）等で、家の構造がわかる住宅のパネル展示・県産木材を材料とした「ものづくりワークショップ」を開催するなど、県民に対して、木づかい運動の啓蒙活動を行う。



## I - 9. 林業体験ツアーの充実

平成子ども記念の森等における森林体験学習などを通して、森林の役割や大切さ、自然の面白さを認識してもらおうと同時に、これからの森林環境や林業についての認識を深めてもらう。・林業試験場で行なっている森林環境、森林保護、木材の特性、林木育種等各分野の試験研究の意義・成果等について、広く県民に啓蒙していく。



## I - 10. 木の家スクールの実施

多様な側面から木の家にアプローチしていく「木の家スクール」を開催。県民に、佐賀の木の良さに具体的に触れてもらい、学んでもらうスクール。住宅を建てる時、リフォームをするときなどに、さかの木を選択肢として考えてもらえる人材を育成していく。また、このスクールで学ぶ人はさかの木に対して意識が高いため、さかの木の良さを発信しての役割も担ってもらう。



## II. 佐賀県産木材を使ってもらおう

- II - 1. 新築
- II - 2. リノベーション
- II - 3. 公共建築物
- II - 4. 公共事業
- II - 5. 民間の店舗

## II - 1. 新築

### ①デザイナー×「地産地消の応援団」オリジナルプランの策定

「地産地消の応援団」が、デザイナーとタッグを組み県産木材の使用率の高い、オリジナルプラン設計を策定する。このことにより、佐賀県産木材を使用した「カッコいい」住宅が県内各所へ建築され、イメージアップにつながるものとなる。



#### Open A

例えば・・・

#### 馬場 正尊 氏 オリジナル設計プラン【佐賀県産木材仕様】の策定

クリエイティブ・ディレクター 馬場正尊氏による、佐賀県産木材をふんだんに使用したオリジナル設計プランを策定。

【運用方法】

馬場正尊氏に、基本設計のプランを策定してもらい、地産地消の応援団が、お客様への提案に使用できるものとする。

決定後の打合せ、プランの変更、施工等は、全て、地産地消の応援団加盟店が実施するものとする。

## II - 1. 新築

### ②県産木材を使用したカフェ兼モデルハウス等の建築

「佐賀県産木材」地産地消の応援団の情報発信の場とする。理屈抜きに「こういう家を建てたい」と思うフラッグシップの役割を担う。そのプロセスをHPなどで発信していくことにより、マスメディア等の取材など、話題作りにも活用していく。

【参考：山形エコハウス】



## II - 2. リノベーション

### 住宅・施設

観光宿泊施設（ホテル、旅館などのロビー、フロント、売店等の共用空間）や、商業施設（スーパー、百貨店、ショッピングセンターなどのイベント広場、休憩場所等の共用空間）などに、県産木材を利用し、デザイン性や木材のもつ機能性を兼ね備えた内装木質化や調度品の設置により、県産木材利用の波及が期待できる、モデル的な「木質空間の整備」を実施する。



### インテリア

空間をデザインするにあたって、インテリアの提案も重要な要素である。さがの木を使用したインテリアをプランの中に組み込めるよう、「Designed in SAGA」「made in SAGA」のインテリアの制作を行う。



流通経路を幅広く持つ大手家具メーカーと組み、佐賀県産木材オリジナル家具のデザインで売り出すことも検討。

## II - 3. 公共建築物

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律（平成22年10月1日施行）」に基づき、公共建築物については、可能な限り木造化又は内装木質化を図り、木材利用を促進する。多くの県民が利用する、公共建築物に県産木材を使用することで、県民に木の良さを実感してもらい、木材利用の拡大を図る。

公共施設（木造施設）



武雄市（武内公民館）

公共施設（内装木質）



佐賀市（富士生涯学習センター）

## II - 4. 公共事業

### 木杭で整備されたクリーク

着工前



施工完了



### 治山事業



## II - 5. 民間の店舗

県産木材の具体的な利用方法を示すため、耐火性能に優れた木造施設など先導的な事例を紹介。森林の保全や二酸化炭素削減への貢献など県産木材を使うことの意義について普及と啓発を推進し、民間の店舗への県産木材の利用を促す。

